

★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご利用ください！
動画はこちら➡<https://youtu.be/jTsuVbmw-iw>



過去の動画はこちら



連載

★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組むクラブ★

一般社団法人^{せい さ}星槎湘南大磯総合型スポーツクラブ
神奈川県中郡大磯町

学校運動部活動を巡っては、少子化による生徒数の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブ概要

(一社)星槎湘南大磯総合型スポーツクラブは、地域の方々の健康増進と青少年の健全な育成に寄与することを目的に、星槎グループの学校施設を活動拠点とする総合型クラブとして、平成24(2012)年に女子サッカー、グラウンドゴルフ、太極拳の競技や、ビーチバレー教室の開催などから活動をスタートしました。そのきっかけとなったのが、平成13(2001)年から活動していたOSA サッカークラブの存在でした。設立時にはドイツ1部リーグで初めての日本人プロ選手として活躍した奥寺康彦氏、テクニカルアドバイザーには元西ドイツ代表のP.リトバルスキー氏が就任し、クラブの運営を支援してくれました。現在は、さまざまなスポーツの普及に力を入れながら、地域貢献活動や社会貢献活動を積極的に行い、まさしく地域に密着した愛されるクラブをめざして活動を続けています。ちなみに、当クラブ所属のSEISA OSAレイア湘南FCは、令和6(2024)年度よりなでしこリーグ(日本女子サッカーリーグ2部)に所属して活躍しています。

活動内容としては、子どもの健全育成を図る活動をはじめ、文化・芸術・スポーツの振興、地域に貢献できるボランティア活動、障がい者の文化・芸術・スポーツの振興に関わる活動、地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校を対象に教育連携事業のほか、令和6(2024)年度より大磯町からの業務委託を請け負い「大磯式部活動地域移行」を実施しています。

現在の活動種目はアーチェリー・サッカー・陸上競技・太極拳・ビーチバレー・グラウンドゴルフ等で、会員数169名(令和6年4月時点)の総合型クラブを、クラブ長ら5名体制で運営しています。その他、公認アシスタントマネージャー有資格者1名もいます。

2

連携事業として大磯式部活動を継続実施

当クラブは、学校法人(学校法人国際学園)関わった総合型クラブです。当クラブはこれまで長年学校部活動との連携に向けて取り組んできました。しかし、活動を始めた当初は学校と行政との連携が不十分であり、なかなか進まない現状や教員の専門性や働き方改革の課題がありました。それらを踏まえて、総合型クラブと地域の小・中学校が協働した体育の授業支援、部活動支援が日本のスポーツのあり方や方向性の大きな指針となると考えました。そこで、令和3(2021)年度より当クラブ(関係する学校法人国際学園湘南学習センター含む)が中心となって、大磯町との連携事業として小学校2校、中学校2校と教育連携事業(大磯式部活動)をスタートさせました。現在まで4年間継続して実施しており、各学校における授業をサポートするための指導員(クラブの指導者・選手、学習センターの教員・生徒)派遣、スポーツ体験のイベント事業等を行っています。

将来的に当クラブが作成した大磯町プラットフォーム構想(図1)によるグランドデザインを実現するために、これまで各学校長、大磯町のスポーツ健康課、教育委員会の協力のもと連携事業を行ってきました。そして、大磯町と関係性を構築しながら教育連携事業を推進してきたなかで、令和5(2023)年6月に大磯町教育委員会より、部活動地域移行について「大磯式部活動」の提案があり、大磯式部活動構想(図2)のもと大磯町のスポーツ団体への協力依頼がありました。当クラブではそのときすでに中学校の授業や部活動のサポートをして関係性を築いていたため、令和6(2024)年度より部活動地域移行に関する事業を受託することになりました。

また、大磯町としては国の実証事業として令和5(2023)年度よりソフトテニス大磯クラブの活動を実施していたことで、部活動の地域移行の方針が明確になっていました。

図1 大磯町プラットフォーム構想(案)

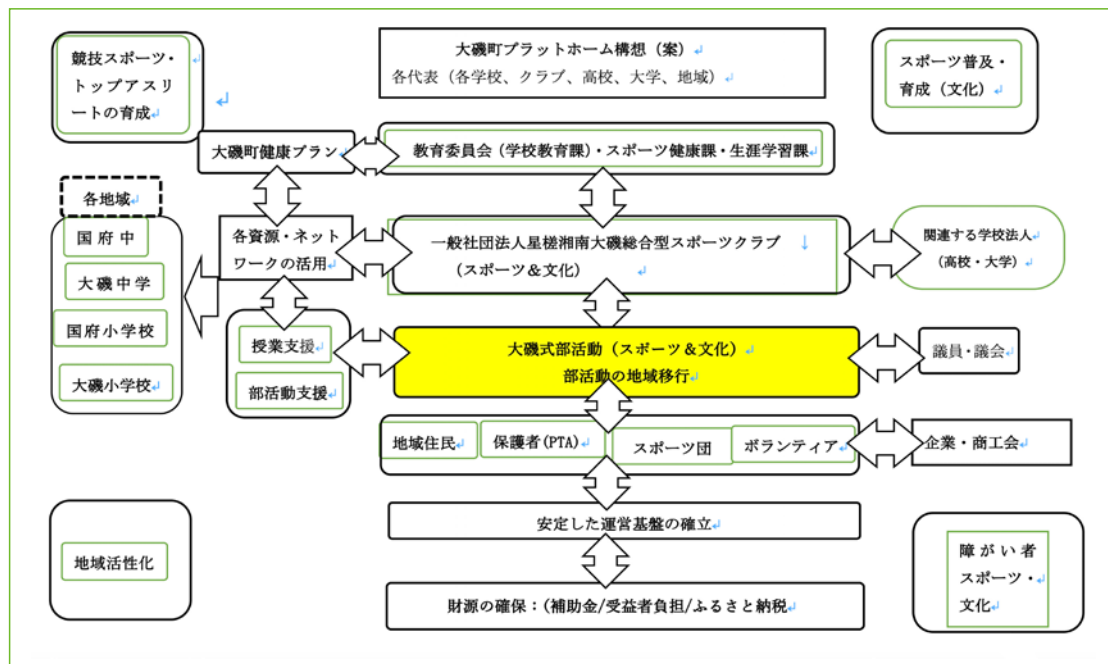
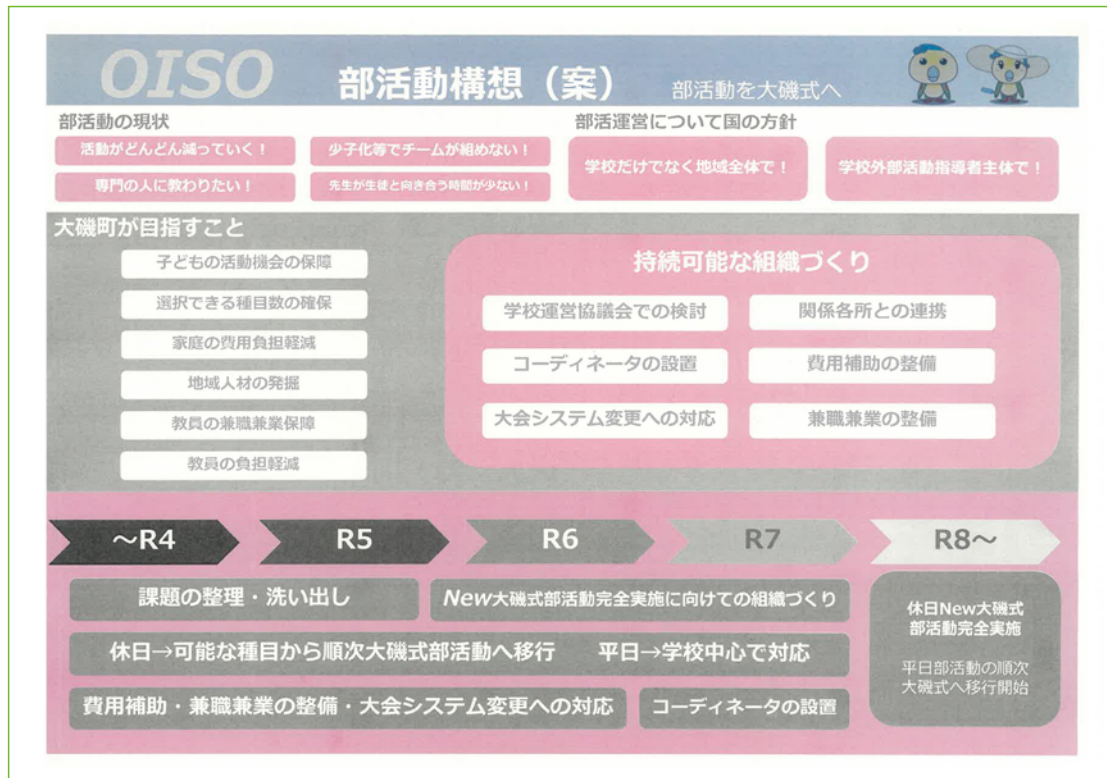
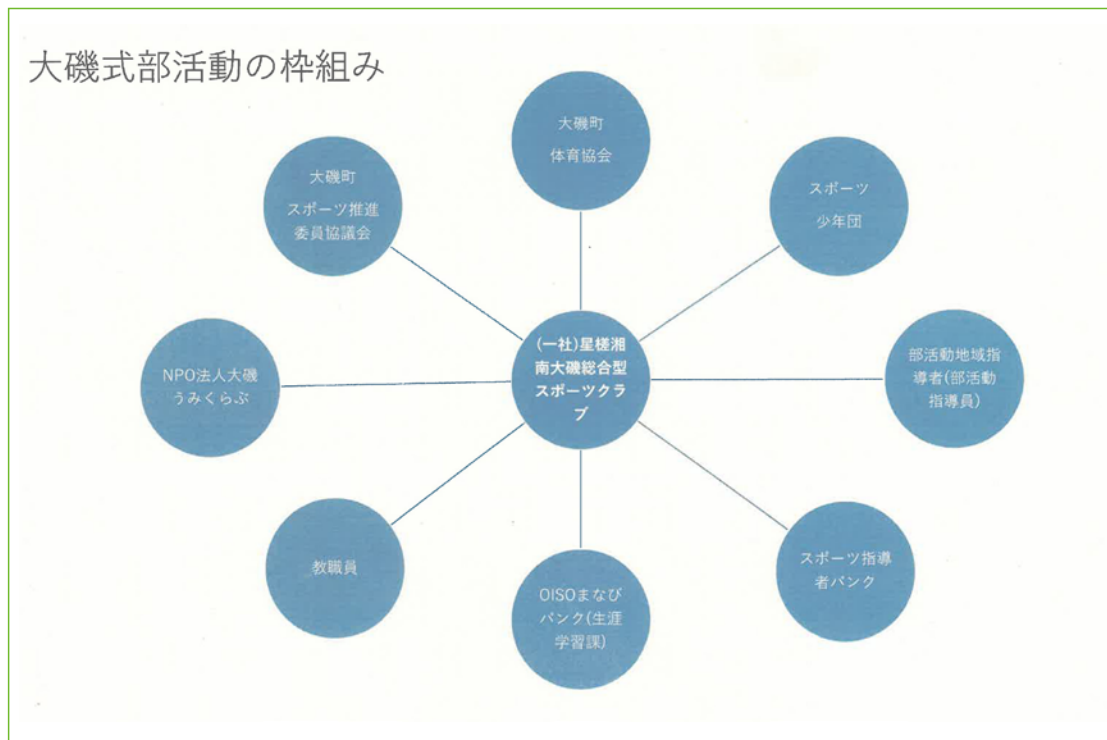


図2 大磯式部活動構想(案)



大磯式部活動の枠組み



事業が拡大しても持続可能な取り組みを行うための課題

スポーツ庁の当初の計画は、令和8(2026)年に平日の部活動を地域移行するもので、大磯式部活動も順次移行する計画でした。令和6(2024)年度からのスタートにあたり、大磯町が全面的に予算を確保して大磯式部活動を実施することが決まり、前述のとおり当クラブが町と業務委託契約を交わし運営業務を行うこととなりました。事業受託に関しては、大磯町のスポーツに関わる団体(スポーツ少年団、スポーツクラブ、スポーツ教室、大磯町のスポーツ協会等)が一堂に会し、大磯式部活動の地域移行の説明を受け、日頃から町のスポーツ事業に協力していた状況や法人格を持つ当クラブが事業受託のクラブとして選出されました。そして、令和6(2024)年度は土日祝日のみを大磯式部活動として、当クラブに登録した指導員を部活動に派遣しています。また、保護者からの費用を徴収せず、町としての大磯式部活動に取り組む姿勢とその熱意を実感しました。

指導員は部活動指導員として、各学校の教職員の希望者(内部指導員・部活動顧問)を当クラブに登録してもらうほか、町の広報紙で希望者を募集し、当クラブが応募者と面接を行い、合格した方のみ学校管理職と確認して指導員登録をしています。

具体的な部活動数は、運動系:A校11部、B校11部／文化系:A校5部、B校5部(男/女部活動は1つずつカウント)で、学校の規模としては、A校18クラス(334人)、B校24クラス(421人)です。

財源は、9,118,850円(令和6年度)で、内訳は指導員報酬・保険料・事務手数料。指導員の報酬については1時間2,000円(1日3時間まで)を謝金として支払い、活動場所は各学校、試合会場、外部練習場を使用しています。しかし、今後事業が拡大しても持続可能な取り組みにできるか、予算の確保が大きな課題となっています。

一定数の指導者の確保と謝金について

指導員への謝金について当初は、指導者の有資格や経験によりランクづけを行い報酬額の設定をする考えもありましたが、一定数の指導者を確保することが優先され、現在は一律の報酬となりました。町として、教員には特勤対応(特殊勤務)と併用することでより指導時間の確保と指導者の確保をしました。また、町独自で平日の部活動地域指導員に対しては1回1,000円の報酬を支払い、平日の部活動の活動を支援しています。

当クラブに登録している指導者は内部指導員(教職員)と外部指導員に分かれています。内部指導員(A校16人、B校14人)は、教職員のなかで土日祝日も部活動に関わりたいたいと考えている方が指導員としてもクラブに登録しており、試合への単独引率が可能です。しかし、外部指導員の場合、各学校の管理職を通して連絡を取っており学校に負担をかけているため、各学校と当クラブとの情報共有の方法がまだ十分ではない課題があります。外部指導員(A校8人、B校5人)に関しては、登録者数が十分ではなく、単独で引率ができる指導力のある指導員の確保が課題であり、指導員の高齢化や一部の指導員との連絡が取れず情報共有に苦慮しています。

予算・収入の獲得については、今のところ、町の方針として受益者負担は望まない方針で、今後スポンサーの獲得、ふるさと納税の活用、クラウドファンディングの活用、将来的に受益者負担の検討が必要です。

3 取り組みにおいてある一定の効果と今後の課題

取り組みの効果について生徒の満足度調査等はまだ行われていませんが、ある程度評価されていると手応えを感じています。今後、教育委員会が主体となって、生徒・保護者へのアンケートを実施する予定です。また、取り組みを始めたことで、生徒の部活動時間の保証と教職員の働き方改革の一助となっていると思います。

その一方で問題点も出てきています。部活動の地域移行や大磯式部活動についての教員・生徒・保護者・地域住民の認知度がまだ不十分と思われます。その理由として、大磯式部活動の対応は土日祝日のみの対応であること。特に内部指導員(教職員)が学校部活動の顧問としても携わっているため、生徒・保護者に大磯式部活動の趣旨が十分に伝わっていないと言えます。生徒にとって内部指導員はあくまでも部活動の顧問であり、活動の変化がないからです。また、大磯町が実施している地域指導者(外部指導員)も部活動指導員として登録・活動している方が多いため、その変化がわかりません。

そして、指導員の資質の確保・向上についてもまだまだ課題があると思われます。内部指導員(教職員)については、顧問としての自覚はあるものの、個人差があるため、指導力を高めて日頃の活動に生かす意識が必要ではないかと思います。また、各学校の管理職が内部指導員の事務的手続きに関与しているので、今後はデジタル化(共有ドライブ)の活用などで指導員と当クラブが直接交渉できるシステムを構築する必要があります。

一方、外部指導員のなかには日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格を取得した方もいますが、なかには経験や実績だけで部活動を指導している方もいるため、今後は当クラブとしても指導者資格の義務づけなどを含めて、部活動指導員の資質の確保・向上に向けて研修制度の確立を図り、指導力のある外部指導員の確保、また、内部指導員の指導力の向上などが課題です。そして、土日祝日などに関しては生徒にとって質の高い活動の確保と満足度を与えることが必要です。そのため、今後はそれらの課題をいかに克服すればよいかの仕組みが求められています。

指導の現場や周辺から聞こえてきた皆さんの声

大磯式部活動を実施したことで、部活動の現場では生徒・保護者・指導員・事務局からは次のような声を聞くことができました。

【生徒のコメント】地域指導員(男女卓球部のメイン顧問)の方が来てくれることで、ふだんはできない卓球の練習を行うことができるのでうれしいです。その他にも、試合のときに技術的なアドバイスをもらうことができるので、視野が広がり相手よりも優位に立つことができるのかなと思います。

【保護者のコメント】部活を通して掛けがえのない仲間ができていく姿を見られることほど、親にとってうれしいことはありません。大磯町の部活動の考え方に感謝の気持ちでいっぱいです。

【外部指導員のコメント】保護者の方や先生方、同級生など“誰からも応援されるチーム”になれるよう心掛けています。これからもあいさつや日々の授業など、ふだんの行いにも気をつけていきたいと思っています。

【教職員のコメント】教材研究の時間もじっくり取れるようになり、より丁寧な授業づくりにつながっています。

【事務局のコメント】大磯式部活動の取り組みについて、町がビジョンを持ち、大磯町の教育委員会が予算を確保した実績が大変大きいと思います。教育部長をはじめ指導主事などの関係者の大磯式部活動に対する積極的な姿勢・取り組みがここまでの実績につながっていると思います。業務委託をしている当クラブとしては、大磯式部活動をより質の高い充実した大磯式部活動へ展開していきたいという強い信念があります。また部活動指導員（内部・外部）の現場での指導の観察をより増やし、指導員の指導力を含めた部活動の環境整備を行いたいと思います。



大磯中の卓球部員たちにとって、ふだんの練習とはまた違った内容が成長につながっているという



国府中ソフトテニス部の指導員は大学生の現役プレイヤー



試合に臨む国府中バレーボール部の様子



大磯中のバスケットボール部の生徒たちも真剣勝負の大会に挑んでいる

4 プラットホーム構想の実現に向けての展望

当クラブとしては、町と教育連携を行うにあたり大きな枠組みのなかで本事業（大磯式部活動）を捉え、当クラブと町の「スポーツ健康プラン」の一環としてスポーツ・文化・健康事業・教育関係の連携事業（大磯式部活動）を考えました。その背景には、町の「けんこうプラン大磯」があります。町の小学校・中学校と当クラブと関係する学校法人国際学園を中心とし、行政・地域・スポーツ団体・ボランティアの協力のもと、教育連携事業の基盤となるプラットフォーム構想による町のスポーツ・健康に関するランドデザインを作成しました。このランドデザインの具現化が目標です。

また、部活動の地域連携・移行の課題として当クラブが考えていることは、部活動の指導現場への視察を増やすこととその改善です。生徒・部活動指導員（内部・外部）とコミュニケーションを果たし、学校管理職と教育委員会と意思の疎通を積極的に図って、大磯式部活動の質・量の改善を図りたいと思っています。

さらに、部活動指導員対象の指導者講習会の実施、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格取得の案内、スポーツ指導に関する情報の提供などを検討します。

財源については、スポンサーの獲得、ふるさと納税の活用、クラウドファンディングを活用する予定です。そして全国で成功しているクラブ事例との情報の共有と交流を行い、広報活動の充実を図りたいと思います。

一般社団法人星槎湘南大磯総合型スポーツクラブ 理事長 本木 幹雄

クラブプロフィール

設立年月日 平成24(2012)年2月16日(平成24年10月11日 法人登記)

所在地 神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2

運営 会員数:169名(令和6年4月現在)、予算規模77,912,000円(令和6年度)

特徴 [令和6年度運営目標]

- 地域の総合型スポーツクラブとして、普及・育成スポーツ・競技スポーツ・健康スポーツ/文化活動を通して、地域活性化をめざします。
- 各スクール事業、ジュニアユース事業の拡大を図り、地域スポーツの普及発展に貢献し、さらに関連する学校法人と連携しユース世代(高校年代)の育成につなげた一貫指導体制の充実を図ります。
- 女子サッカーにおいては、社会人チーム(現在なでしこリーグ2部所属)へつながる一貫指導体制を通じ、地域から応援されるチームづくりをめざします。
- 各カテゴリーの会員の獲得をより図り、健全なクラブ運営をめざします。
- 地元行政と各学校(小学校・中学校)と教育連携を図り、部活動の地域移行を踏まえスポーツを通じて「地域活性化」をめざします。
- 令和4(2022)年度から総合型地域スポーツクラブの登録制度がスタートしましたが、登録クラブとして認定されることでコンプライアンスを重視し、地域に信頼されるスポーツクラブをめざし、スポーツ・文化活動を通じて共生社会の実現を追求します。

連絡先 〒259-0111 住所:神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2

TEL:0463-74-5328 FAX:0463-26-6661

HP:<https://sosc.jp>

E-mail:s_suzuki@seisa.ac.jp 鈴木 / y_inoue@seisa.ed.jp 井上



クラブエンブレム